



10年を超えて、次の10年へ

医療通訳研究会 (MEDINT) 代表 村松紀子

医療通訳研究会 (MEDINT) は2002年10月に設立しました。

あれから13年。当初、10年やって成果がでなければ撤退を考えると決めてはじめた活動でしたが、医療者、通訳者、行政、研究者、いろんな人が医療通訳を理解して応援してくれるようになり、最近では「医療通訳」という言葉が「一般名詞」化したと実感しています。

2008年の渡航医学会のシンポジウムで「冷蔵庫を買ってお金を払わなかったら泥棒なのに、通訳を使ってお金をはらわなければ泥棒じゃないんですか」といわなければいけなかった当時を思うと、医療通訳者の報酬についての議論がされ、ボランティアであったとしても、予算化に向けての取り組みをしていくという方向性が見えてきたこともうれしいことです。

私は、医療通訳者は、医療専門職として、医療機関に雇用され、外国人患者へのチーム医療の一翼を担うにふさわしいものになることを目指すべきだと思っています。

医療通訳研究会 (MEDINT) は法人格もない小さな団体ですが、物言う医療通訳者の団体として、これからも研修やシンポジウムを中心に活動していきます。

たとえ、活動に誰も見向きもしなくなったとしても、一人になっても意義があるうちは続けようと思ってきましたが、支えてくれる人たちがいて、本当にありがたいと感じています。

事務局の庵原さんはじめ、ずっと参加してくださっている会員さんや講座を提供してくださる先生方に支えていただき、今日のMEDINTがあります。

2020年に向けて、医療通訳は様々なビジネスや政策に翻弄されていくかもしれません。それは、新しい仕事ができるときには必ず必要な流れでしょう。しかし、私たちは初心を忘れることなく、人にしかできない心のこもった医療通訳を担うべく日々精進し、外国人医療と医療通訳環境の発展にむけて努力をしていくしかないと思います。

東京ではなく地方での活動なので、スピードは遅いですが、無理をせず、皆さん一緒にがんばりましょう。



2015年10月クリニック実習
大阪市西区のAYクリニックにて

南

米で育った私は人の為に働きなさいという思いを親から教えられ、医学に道に進みました。MEDINT には知人からの紹介で、当初はオブザーバーとして参加しても医学的又、スペイン語の知識から少しはお役にたてるのではないかと考えからでした。

私には医療通訳者として知識や経験は無く、当たり前の事だと言われそうですが、相手に聞きやすい訳心がける、又患者さんは健康に心配を持ち病院という完全なアウェイの環境に置かれていることから不必要に不安にさせないという事を大事にしたいです。そのためには日ごろの勉強や同時通訳前の雑談までの下準備が大切だと感じています。

これからも皆様の下準備のお役に少しでも立つことができれば幸いです。

スペイン語担当 医師 松村 太

M

MEDINT の会員として 10 年が経ちました。最初、看護師としての自分が会員になりたいと思った動機は、昔、途上国で医療ボランティアをした経験を国内で活かしたいという、シンプルな思いからでした。ただ、語学の専門知識や医療通訳者でもない自分が、MEDINT の活動にずっと関わることができたのは、この会を作っている方々が、医療通訳という技術や知識だけを研鑽する場ではなく、文化を越えた人間理解という深遠なテーマを持ち続けながら活動されているからだと思います。

コミュニケーションに言葉はもちろん必要だけれど、言葉以外の物、人を受け入れる心、互いを理解しようとする姿勢はもっと重要です。MEDINT は、そういった人としての在り方をずっと大切にされて来たのではないかと思います。開催イベントでは、医療通訳に関わる現場の人々の思いをシェアしたり、起きる課題を見出し、制度であったり、組織の仕組み作りを考えていく場でもありました。そこに携わる皆さまの尽力で、現在では全国の様々な組織、教育機関、国際関係のイベントで「医療通訳」という言葉が聞かれるようになり、看護の領域では、教育機関の国際看護学の授業から「在日外国人看護」「医療通訳」という概念が習えるようになりました。これからも、MEDINT には、生じる課題について様々な人々が考え、意見を共有でき、学びと相互理解が深まる場として、これからも在り続けて頂ければと思います。

また、MEDINT 看護部の一員としては、現在はメンバーと看護教育機関に講義で伺う機会が増えました。自分の力で行えることは小さいですが、仲間と共に力を合わせて「文化を越えた看護」が伝える事ができればと思います。

看護部 看護師 中井 陽隆

会

に期待することは、医療や医療通訳（言語）についての講座、情報交換、交流などです。現在行われているネイティブによる講座は有効であり、以前行われていた総合診療の講座（松本先生）も復活頂ければありがたいと思います。通訳の勉強は、通訳学校に通いました。医療知識・通訳については、現在、MEDINT のほか、関西通訳・ガイド協会の講座や自主勉強会（MET 千里）に通っています。以前、りんくう総合医療センターで医療通訳をしていた時は、その講座や勉強会に参加していました。医療通訳の機会は多くなくモチベーションを維持するのは難しいと思いますが、とにかく講座等に参加すること、仲間と話をすることが大切だと思います。

会員 松本 佐紀子